

ヒト化マウス シンポジウム 2026

Humanized Mouse Symposium 2026

7/3 
13:00~

会場 (ハイブリット開催)

 TKP 東京駅カンファレンスセンター 8階
 Live 配信

アクセス



開催情報



現地参加お申し込み



ポスター発表演題登録



※登録締切：6/8 (月)

アクセス：https://x.gd/TKPtokyo_access

開催情報：<https://www.jax.or.jp/event/detail/HumanizedMouseSymposium2026>

現地参加お申し込み：<https://e-ve.event-form.jp/event/126981/xIDUwKGIWl>

ポスター発表演題登録：<https://forms.office.com/r/dReXWeaYLr>

タイムテーブル / 講演概要

- 13:20 - 14:00 第1講演 マウスHSC研究を基盤としたヒト造血階層性の再整理
- 14:00 - 14:40 第2講演 造血幹細胞が刻むリズム“静止状態と自己複製”を理解して操る
- 14:40 - 15:20 第3講演 次世代型 CAR-T細胞療法の非臨床POC確立を目指した最新研究
- 15:20 - 15:40 フラッシュトーク
- 15:40 - 15:50 休憩
- 15:50 - 16:30 第4講演 多様な免疫不全マウスを活用したがん免疫研究と遺伝子操作可能なPDXモデルの構築
- 16:30 - 17:10 第5講演 がんに対する新規細胞免疫療法の開発～xenograft modelを中心に～
- 17:40 - 19:40 情報交換会・ポスター発表

【第1講演】 マウスHSC研究を基盤としたヒト造血階層性の再整理



国立大学法人 神戸大学大学院医学研究科
生化学・分子生物学講座 細胞医科学分野

宮西 正憲 先生

ヒト造血階層性の理解には、免疫不全マウス・ヒト化マウスへの移植実験による in vivo 機能解析が不可欠である。一方で、異種環境下での再構築という制約やモデル条件の多様性から、マウス造血と比べてその階層構造や機能的定義は十分に整理されているとは言い難い。我々は、マウスで確立された造血幹細胞（HSC）分画の機能、階層性定義を基盤として、ヒト造血幹前駆細胞（HSPC）分画の階層性を新たに解析した。本講演では、これらの解析を通じて、マウス造血との整合性に留意しながら、ヒト造血における階層性をどのように捉え直せるかを議論したい。

【第2講演】 造血幹細胞が刻むリズム“静止状態と自己複製”を理解して操る



東北大学大学院医学系研究科 幹細胞医学分野
国立健康危機管理研究機構 (JIHS) 国立国際医療研究所 造血システム研究部

田久保 圭誉 先生

造血幹細胞 (HSC) は定常状態では多くが細胞周期が静止期 (G0期) にあるが、血球需要が高まると分裂を開始し、需要が満たされると再び静止状態へと戻る。HSC は造血幹細胞移植 (HSCT) の資源として重要であるが、ドナー不足に加え、安全性や適応拡大の課題が残されている。解決策として HSC の体外培養・増幅が試みられてきたが、静止期の維持や再静止化に焦点を当てた培養系の研究は乏しかった。さらに、既存法で体内分子のみで構成された培養系は限られている。本発表では HSC の「静止・分裂・再静止」を再現する各培養系と作動機構、免疫不全マウスを活用した解析を紹介し、HSCT の発展に向けた応用可能性について議論する。

【第3講演】 次世代型 CAR-T細胞療法の非臨床 POC 確立を目指した最新研究



山口大学細胞デザイン医科学研究所
山口大学大学院医学系研究科 免疫学講座

玉田 耕治 先生

難治性がんに対する免疫療法として、遺伝子改変免疫細胞療法の研究開発が急速に進展している。中でも、キメラ抗原受容体 (CAR) を導入した CAR-T細胞療法は血液がんに対して高い有効性を示し、既に臨床応用されている。一方で、有害事象や再発、固形がんに対する効果の限界などの課題が残されている。これらの課題克服に向け、免疫不全マウスを用いたヒトがんモデルにおいて CAR-T細胞の抗腫瘍効果や安全性を評価する非臨床研究が進められている。本講演では、最新のがん免疫療法の現状と課題を概説し、次世代型 CAR-T細胞療法を含む遺伝子改変免疫細胞療法の将来像について議論する。

【第4講演】 多様な免疫不全マウスを活用したがん免疫研究と遺伝子操作可能なPDXモデルの構築



東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 先進分子腫瘍学分野

合山 進 先生

造血器腫瘍の病態形成や治療感受性には、がん免疫微小環境が決定的な役割を果たしている。私達は、NSGマウスや Rag2 欠失マウスなど、免疫能の異なるモデルを比較解析することで、急性骨髄性白血病に対する自然免疫の重要性を実証してきた。本講演ではその知見を紹介するとともに、研究を加速させる次世代ツールとして、Cas9/Cas13-degron システムによる遺伝子・RNA 発現の自在な制御を実装した、最新の PDX モデルについても言及する。

【第5講演】 がんに対する新規細胞免疫療法の開発～xenograft modelを中心に～



大阪大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学

保仙 直毅 先生

我々の研究室では一貫して、がんに特異的に結合するモノクローナル抗体を単離し、それをもとにした CAR-T細胞あるいは CAR-NK細胞を開発することを進めてきた。それらの抗腫瘍効果の評価のために、免疫不全マウスを用いた xenograft モデルは不可欠であり、我々の研究室でも長年にわたってそのような実験を行い続けてきた。本講演では、そのような我々の研究をご紹介しますとともに、細胞免疫療法の開発におけるヒト化マウスの重要性について述べ、その限界についても考察してみたい。

ポスター発表セッション

本シンポジウムでは、ポスター発表セッションを予定しております。ご講演の合間に1分間のフラッシュトーク、情報交換会にてポスター発表を行います。本セッションは、研究成果を発表する場としてだけでなく、参加者同士の交流を深める貴重な機会です。

発表者の皆様には参加賞をご用意しております。ぜひ積極的にご参加ください。

皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

演題登録はこちら



- 発表形式
フラッシュトーク (1分間) + ポスター発表
- ポスターサイズ
A0サイズ以内 (841mm × 1189mm)
- 演題登録締切
2026年6月8日 (月)
※応募多数の場合は、査読による選考を行います。

情報交換会

現地開催参加者の方は無料で情報交換会へご参加いただけます。

ご講演者の先生方や参加者の方々と、ご講演内容や日々のご研究についてディスカッションいただけます。ぜひこの機会に研究者様間での情報交換の場としてお役立てください。

※ささやかではございますが、立食形式にてお飲み物とお食事をご用意いたします。

NSG™ Variants

NSG™ Variants は、最も高度な免疫不全マウスであり、ヒト化マウス作製、がん免疫研究、幹細胞生物学および感染症研究に最適なモデルです。



NSG™ Variants Portfolio

<https://www.jax.org/jax-mice-and-services/find-mice/nsg-portfolio>



ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社



jax.or.jp



ask@jax.or.jp



[@JAX_Japan](#)